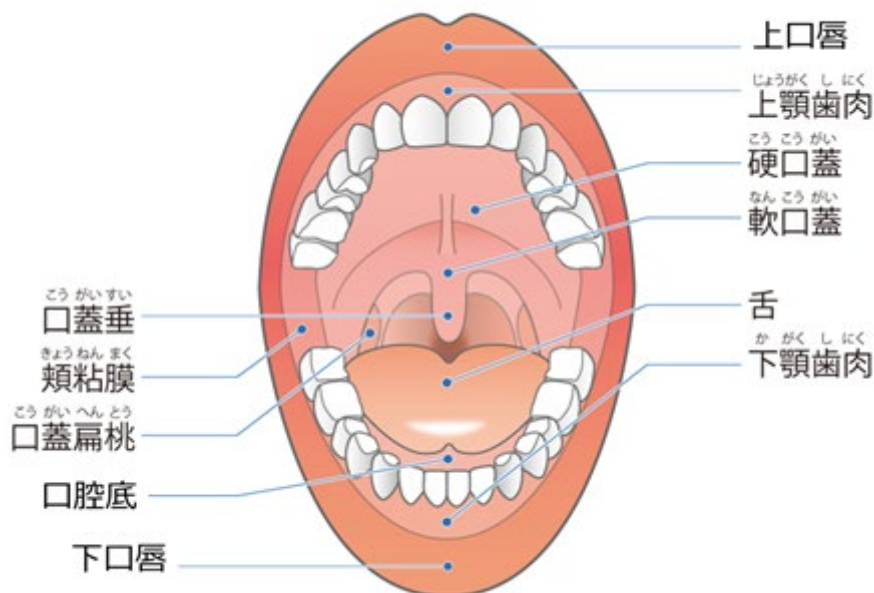


口腔（こうくう）がんについて

口の中にも「がん」ができることがあります。舌、上下歯肉（はぐき）、頬粘膜、口蓋（天井部分）、口底（舌と下顎歯肉の間）、口唇にできます。



口腔がんは「希少がん」に分類されています。「希少がん」とは人口 10 万人当たり 6 例未満の方が罹患する「まれ」な「がん」と定義されています。 [国立がん研究センター希少がんセンター](#)

口腔がんの治療は？

口腔がんに限らず、現代医療では様々な疾患に対して「ガイドライン」というものが設定されていて、治療方針は「ガイドライン」に則って決定されることがほとんどです。



当科では「口腔がん診療ガイドライン」「口腔がん取り扱い規約」「頭頸部癌診療ガイドライン」に則って治療方針を決定しています。

なぜガイドラインに則った治療を行うのか

国の基本的施策として、「がん医療の均てん化」というものがあります。これは全国どの医療機関で治療を受けることになっても「標準的な」専門医療を受けられるように、「医療技術などの格差是正を図る」ことが目的です。したがって、〇〇がんセンターや□□大学や△△病院でも**まず標準治療が提供**されることになります。

「標準治療」と「先進医療」

標準治療：医学的根拠に基づいて行われる、現代医療で**治る見込みが最も高い**治療方針。

先進医療：標準治療を行ったが治らなかったがんに対して行われる、**現在研究段階の治るかもしれない**治療方針。主に〇〇がんセンターや□□大学で行われる治療。標準治療が行われていなければ行われない。健康保険が適用されない。

厚生労働省：[先進医療の概要について](#)

我々医療者は「治る見込みが高い医療を提供する」義務があると考えているので、いきなり〇〇がんセンターで先進医療を受けに行きたいと訴えても、**標準治療を行っていない患者さんに対して先進医療は提供されません**。提示された標準治療に疑問がある場合は「セカンドオピニオン」として紹介します。

口腔がんの根治療法のための標準治療とは

第一選択：どのようなステージであれ、**手術できるものは手術**する。手術の程度によるが、**入院期間は10日から30日程度**。手術後に化学放射線療法が必要と判断されると、さらに3か月程度延長することになる。

第二選択：手術することで障害が大きくなるようであれば化学放射線療法を行う。通常、放射線療法が7週間程度、抗がん剤が3~4週に1回で、合計3回行われるため、**入院期間は3か月程度**。回復の程度によってはそれ以上の入院になる。

最後に・・・

2週間程度経過しているのに改善しない病変については、ご自身が想定している病気と異なる可能性がありますので、専門医療機関を受診することをお勧めします。